

川柳「一般の部」

青砥 和子・文化協会文芸部会 選

優 秀 賞

重陽の月に腰掛け祝い酒

山本 三樹夫

「選者の寸評」

重陽のころの月は、半月から満月へ向かって少しずつ膨らんでいきます。ふんわりと腰掛けられそうですね。菊の花びらを数枚浮かべた菊酒で節句を祝います。皆でワイワイと邪気を払っている賑やかなご長寿さんたちの様子が見えます。

ふふふっとゆるんでネジが抜けてくる

大嶋 都嗣子

「選者の寸評」

「ふふふっ」と笑ったら、張りつめていた緊張がほどけ、体や心のネジがゆるみ、力が抜けていく、そんな開放感をユーモラスに表現されました。

サーフィンのように乗りたい老いの波

板谷 美知子

「選者の寸評」

老いとは誰にも訪れる大きな「波」ととらえた作者。その波に逆らうのではなく、サーフィンのように軽快に乗りこなし、もっともっと人生を楽しみたいという 願いを明るく表現されています。作者は人生の達人ですね。